

ウィークリー・ブレッド・オブ・ライフ

(2025年5月19日(月)～25日(日))

岸和田聖書教会

牧師 栗原純人

「ブレッド・オブ・ライフ」とは「いのちのパン」(ヨハネ 6:48)。「わたしはいのちのパンです」と言われるイエス・キリストさまに目を向け、主をみことばによって食しましょう。今日一日の力です。以下の手順を参考に聖書を読みましょう。

1. 静まります。「しかし私は 義のうちに御顔を仰ぎ見 目覚めるとき 御姿に満ち足りるでしょう。」(詩篇 17:15)。神さまがあなたを呼んでおられます。
2. 声に出してその日の聖書日課を読みます。
3. 気づいたこと、わからないことなどをノートに箇条書きし、その後『みことばの光』、このブレッド・オブ・ライフの文章を読みます。わかったことがあったら、さらに書いてみましょう。『みことばの光』は一冊(一ヶ月)430円(注文は栗原弥希姉まで)。
4. もう一度、聖書日課を読みます。違う響きがあるでしょうか？
5. 祈りましょう。実際に声に出して。そして祈りの中心部分を書いてみましょう。一日の終わりに、今朝の聖書を思い起こし、みことばがどのように生きたか、思い巡らしながら、おやすみなさい。

5月19日(月) 本日は、福音交友会実行委員会が行なわれます。

今日の聖書日課：ヘブル8:1～13

しかし今、この大祭司は、よりすぐれた契約の仲介者であるだけに、その分、はるかにすぐれた奉仕を得ておられます。その契約は、よりすぐれた約束に基づいて制定されたものです。

ヘブル8:6

「この大祭司」とはイエス・キリストのこと。祭司とは神と人との間に立って、その契約の仲介者として働く人。「よりすぐれた契約」とは、イエス・キリストの十字架による契約。恵みとあわれみの契約。信じるだけで、神を見上げるだけで救われる契約。そのようにして結ばれた契約においては、義務感ではなく主体的な感謝がいつも献げられます。

あなたと神さまの間にはいつも、イエスさまがおられます。イエスさまはいつも、あなたのために祈っておられるのです。想像できますか？

5月20日(火)

今日の聖書日課：ヘブル9:1～14

まして、キリストが傷のないご自分を、とこしえの御霊によって神にお献げになったその血は、どれだけ私たちの良心をきよめて死んだ行いから離れさせ、生ける神に仕える者にすることでしょうか。

ヘブル9:14

イエス・キリストが十字架で流された血によって罪が赦された者は、死んでもよみがえる。やがて天の御国に迎えられます。それまでの間、救われた者は何をすることでしょうか？生ける神に仕えるのです。十字架の血は私たちの汚れた良心をきよめます。死んだ行いから離れさせます。神に仕えることが喜びとして献げられるのです。ちなみに私たちは天国でも神さまに仕えます。「もはや、のろわれるものは何もない。神と子羊の御座が都の中にあり、神のしもべたちは神に仕え、」(黙示録 22:3)。天国だから喜んで行きます。今、どうですか？

5月21日(水) 今日には祈禱会が行われます。

今日の聖書日課：ヘブル9：15～28

もし同じだとしたら、世界の基が据えられたときから、何度も苦難を受けなければならなかったでしょう。しかし今、キリストはただ一度だけ、世々の終わりに、ご自分をいけにえとして罪を取り除くために現れてくださいました。

ヘブル9：26

「ただ一度だけ」とは十字架のこと。それまでは、地上の祭司が、何度も何度もいけにえの動物を屠って罪の赦しが宣言されていました。キリストの十字架以降、何度もいけにえを献げることはなくなりました。このただ一度だけの死、イエスの身代わりの死、私たちの身代わりに神に見捨てられたことによって、私たちはこのお方を信じ、仰ぎ見るだけで赦され、救われるのです。

5月22日(木) 岸和田では英会話クラス。和歌山では「午後の集い」があります。

今日の聖書日課：ヘブル10：1～18

キリストは、罪のために一つのいけにえを献げた後、永遠に神の右の座に着き、あとは、敵がご自分の足台とされるのを待っておられます。

ヘブル10：12

一つのいけにえ：一度だけの十字架の死。その後、イエスはよみがえられ、天に昇り、神の右の座に着かれました。「敵」とはサタン。敵がご自分の足台となるのは、終わりの日。主の再臨のとき。しかし再臨が来る前の、今、このときも「終わりの日」。この地においても主イエスによって私たちがサタンに勝利すること。それでこそ、私たちは再臨を心から待ち望むのです。

5月23日(金) 本日はバルナバ会。ハイデルベルク信仰問答を通してみことばを学びます。

今日の聖書日課：ヘブル10：19～31

ある人たちの習慣に倣って自分たちの集まりをやめたりせず、むしろ励まし合いましょう。その日が近づいていることが分かっているのですから、ますます励もうではありませんか。

ヘブル10：25

「その日」：主の再臨はまだ来ていない。しかしその日は近づいている。サタンは主を信じる仲間たちを、教会を信仰から引き離そうとやっきになっています。それがヘブル人への手紙の背景。著者はイエス・キリストのすばらしさを、さんざん示しつつ、励まします。集まるように。あなたは何のために集まっていますか？励まし合いましょう。励まされましょう。

5月24日(土)

今日の聖書日課：ヘブル10：32～39

しかし私たちは、恐れ退いて滅びる者ではなく、信じていのちを保つ者です。

ヘブル10：39

「もうしばらく」と言われています。イエスの再臨のことです(37)。今、この地上で信仰によって生きましょう。骨抜きのカリスマンではない、恐れ退いて滅びる者ではなく、信じていのちを保つ、永遠のいのちをこの世の人々に証しする者として、者たちとして生きましょう。

5月25日(日) 本日はCS合同・歓迎礼拝 中高生たちも10：30からスタートします。

本日の礼拝説教箇所：ヘブル11：1～3 「見えないものを信じるとは？」

「見えるものが、目に見えるものからできたのではないこと」を悟りましょう！